

- 問1 大陸から伝わった稲作が日本各地に広まったことは、当時の社会のあり方に大きな変化をもたらしました。収穫物の貯蔵という観点から、稲作の普及が社会に与えた影響として最も適切な説明を選びなさい。 (2023年 神奈川県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---|---|
| 1. 食料を保存する必要がなくなったため、人々は定住をやめて獲物を追いかける移動生活へと戻った。 | 2. 収穫したコメを富として蓄えることが可能になったため、蓄えの多寡による貧富の差や身分の違いが生まれた。 | 3. 収穫物を平等に分配する仕組みが完成したため、ムラ同士の争いは完全になくなり平和な社会が実現した。 | 4. 収穫した稲を加工するために、鉄器よりも先に漢字が伝来し、役所による管理体制が全国で確立した。 |
|--|---|---|---|
- 問2 弥生時代に大陸から伝わり、日本の社会を大きく変化した稲作の広がりについて述べた文として、正しいものはどれか。 (2023年 佐賀県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--|---|
| 1. 稲作の普及により、それまで使われていた打製石器がすべて消失し、すべてが青銅器や鉄器に置き換わった。 | 2. 稲作が伝わった直後に大王（おおきみ）と呼ばれる強力な支配者が現れ、全国の開墾を命令した。 | 3. 稲作は日本全土に均一に広まり、北海道や沖縄においてもこの時期に大規模な水田開発が行われた。 | 4. 稲作は九州から始まり、東北地方まで広がったが、当時の気候や環境の影響もあり北海道や沖縄を除く地域に定着した。 |
|--|---|--|---|
- 問3 弥生時代に大陸から稲作が伝来して定住生活が広まると、集落（ムラ）の間で大規模な争いが発生するようになりました。縄文時代の狩猟・採集中心の生活ではあまり見られなかったこのような対立が、弥生時代に激化した主な理由として適切なものはどれですか。 (2024年 北海道公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|-------------------------------------|--|
| 1. 獲物を追って移動する範囲を広げる中で、獲物の所有権をめぐる対立したため | 2. 水田を耕作するための土地や、農業に欠かせない水の利権を確保しようとしたため | 3. 大陸から伝来した仏教の布教めぐり、信仰の違いから衝突が起きたため | 4. 気候の寒冷化によって木の実などの食料が激減し、採集場所を奪い合ったため |
|--|--|-------------------------------------|--|
- 問4 1世紀半ばに日本の「奴国」の王が中国へ使者を送り、皇帝から金印を授かったという出来事が記されている、当時の中国の歴史書として正しいものを答えなさい。 (2016年 大阪府公立入試 類似)
- | | | | |
|-------|---------|--------|-------|
| 1. 魏志 | 2. 日本書紀 | 3. 後漢書 | 4. 史記 |
|-------|---------|--------|-------|
- 問5 弥生時代の集落が、縄文時代の集落にはほとんど見られなかった「濠」や「柵」といった厳重な防御施設を備えるようになった背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2022年 沖縄県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------------------------------------|----------------------------------|---|-------------------------------------|
| 1. 集落内に川を引き込み、農作物の洗浄や生活用水を確保しやすくするため | 2. 仏教の伝来に伴い、寺院や宝物を盗賊から守る必要が生じたため | 3. 稲作の普及により、土地や水をめぐる集落間の争いが発生するようになったため | 4. 大陸との交易が活発になり、海外から持ち込まれた貨幣を保管するため |
|--------------------------------------|----------------------------------|---|-------------------------------------|
- 問6 江戸時代に志賀島で発見された「漢委奴国王」と刻まれた金印や、3世紀の歴史書に記された卑弥呼が「親魏倭王」の称号を授かったという記述は、当時の日本と中国のどのような関係を示していますか。 (2021年 茨城県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|--|
| 1. 日本と中国が対等な立場での自由貿易を約束し、称号の交換を経済的な儀礼とした関係 | 2. 中国の皇帝に臣下として礼を尽くすことで、自らの支配権の正統性を認めてもらう関係 | 3. 中国の皇帝が日本の優れた統治体制に学び、日本の王に中国の政治顧問を依頼した関係 | 4. 日本が中国の王朝に対して軍事的な圧力をかけ、金印や称号を無理やり奪い取った関係 |
|--|--|--|--|
- 問7 佐賀県に位置する弥生時代の代表的な遺跡では、居住エリアの周囲を二重の濠（ほり）や高い柵が囲んでおり、外敵を監視するための物見櫓（ものみやぐら）の跡も見つかっています。この遺跡の名称と特徴の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2022年 沖縄県公立入試 類似)
- | | | | |
|-----------------------|------------------------|--------------------------|----------------------|
| 1. 三内丸山遺跡 — 縄文時代の巨大集落 | 2. 登呂遺跡 — 仏教寺院が建立された集落 | 3. 板付遺跡 — 広場に川が流れる開放的な集落 | 4. 吉野ヶ里遺跡 — 大規模な環濠集落 |
|-----------------------|------------------------|--------------------------|----------------------|
- 問8 弥生時代の遺跡から発掘される人骨に見られる特徴のうち、当時の社会において集落間の対立が激化したことを示す根拠として正しいものはどれですか。 (2022年 沖縄県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 骨に武器による殺傷跡があったり、本来あるはずの頭部がない状態で発見されたりすること | 2. 人骨が、身分に応じた大きさや形の異なる前方後円墳などの古墳から発見されること | 3. 人骨の周囲に、祭祀に用いられたと考えられる銅鐸や銅剣が大量に並べられていること | 4. 骨の成分分析から、家畜の肉を主食としていたことが判明し、獲物の奪い合いが推測されること |
|--|---|--|--|
- 問9 弥生時代に製作された銅鐸や銅鏡などの青銅器について、その主な役割や目的として最も適切な説明はどれか。 (2026年 新潟県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------------------------------------|--------------------------------------|-------------------------------|---|
| 1. 大陸との交易において、通貨の代わりとなる経済的な手段として用いられた | 2. 集落間の争いにおいて、敵を攻撃するための強力な武器として用いられた | 3. 稲作の豊穡などを願うための祭祀の道具として用いられた | 4. 木材を加工したり土を掘り起こしたりするための実用的な工具として用いられた |
|---------------------------------------|--------------------------------------|-------------------------------|---|
- 問10 稲作の伝来によって食料を蓄えることが可能になると、社会の仕組みが大きく変化しました。土地や水をめぐる争いが発生し、富や権力を持つ者が現れたことで生じた、当時の社会の変化として正しい説明を選びなさい。 (2023年 長野県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|-----------------------------------|---------------------------------------|--|
| 1. 各地に「クニ」と呼ばれるまとまりができ、それを支配する「王」が現れた。 | 2. 人々は定住をやめ、マンモスを追いかけて移動する生活に戻った。 | 3. 朝廷が全国の人々を戸籍に登録し、すべての人に一律に口分田を支給した。 | 4. 身分差がなくなり、すべての村人が平等に食料を分配する仕組みが完成した。 |
|--|-----------------------------------|---------------------------------------|--|
- 問11 弥生時代の大規模な集落に見られる「環濠集落」について、集落の周囲に深い壕や柵を設けた当時の社会的な背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2025年 群馬県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|--|
| 1. 稲作が普及して蓄えられた食料や土地をめぐる争いが始まり、防御を固める必要があったため | 2. 仏教が伝来したことで、寺院を中心とした聖なる空間を俗世間から区別するため | 3. 大陸から伝わった最新の建築技術を誇示し、周辺の豪族に対して政治的優位を示すため | 4. 大規模な洪水や高潮などの自然災害から、住居や高床倉庫が流されるのを防ぐため |
|---|---|--|--|
- 問12 弥生時代における「ムラ同士の争い」は、その後の日本の社会構造にどのような変化をもたらしましたか。当時の社会の流れとして最も適切な説明を選びなさい。 (2024年 北海道公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|---|--|
| 1. 争いを鎮めるために、各集落が完全に独立したまま交流を断つ鎖国のような状態になった | 2. すべての人が平等に食料を分配する仕組みが作られ、身分の差が完全になくなった | 3. 争いを通じて周辺のムラが統合され、クニと呼ばれる強力な政治的まとまりが形成された | 4. 争いを避けるために人々が再び移動生活に戻り、定住する集落が一時的に消滅した |
|---|--|---|--|

答え合わせ・解説

問1	答え 2 収穫したコメを富として蓄えることが可能になったため、蓄えの多寡による貧富の差や身分の違いが生まれた。	稲作によって食料の安定的な確保が可能になりましたが、同時に収穫したコメを貯蔵できるようになったことで、それが「富」としての価値を持つようになりました。これにより、多くのコメを持つ者と持たざる者の間で貧富の差が生まれ、さらに水や土地を巡るムラ同士の争いが発生し、社会の階層化が進む要因となりました。
問2	答え 4 稲作は九州から始まり、東北地方まで広がったが、当時の気候や環境の影響もあり北海道や沖縄を除く地域に定着した。	大陸から伝わった本格的な稲作は、九州北部から始まり、次第に本州、四国、東北地方へと広がっていきました。しかし、冷涼な気候の北海道や亜熱帯の沖縄にはこの段階では定着せず、それぞれの地域で独自の文化が営まれました。大王の出現は後の古墳時代のことです。
問3	答え 2 水田を耕作するための土地や、農業に欠かせない水の利権を確保しようとしたため	稲作が始まると、安定して米を生産するために、日当たりの良い土地や灌漑に必要な水の確保が死活問題となりました。これらをめぐって集落間で利害が対立したことが、組織的な武力衝突へと発展しました。また、収穫した米を蓄積できるようになったことで、貧富の差や権力の差が生じたことも争いの一因です。
問4	答え 3 後漢書	西暦57年に倭の奴国の王が使者を送り、光武帝から金印を授かった事実は『後漢書』東夷伝に記されています。江戸時代に志賀島（福岡県）で発見された「漢委奴国王」の金印は、この記述を裏付ける重要な史料となりました。3世紀の卑弥呼について記された『魏志』倭人伝とは時代が異なるため、区別が必要です。
問5	答え 3 稲作の普及により、土地や水をめぐる集落間の争いが発生するようになったため	弥生時代に水稻耕作が始まると、食料の備蓄が可能になる一方で、水利権や肥沃な土地をめぐり利害対立が生じ、集落間で武力を用いた争いが起こるようになりました。こうした「戦い」の時代の到来により、人々の生活拠点である集落を柵や濠で守る必要性が高まりました。
問6	答え 2 中国の皇帝に臣下として礼を尽くすことで、自らの支配権の正統性を認めてもらう関係	1世紀には奴国の王が後漢の光武帝から金印を授かり、3世紀には邪馬台国の卑弥呼が魏から「親魏倭王」の称号と金印などを授かりました。これらは、中国の皇帝から「位」を認めてもらうことで、国内の他の勢力に対して自らの権威を誇示しようとした外交の形を証明しています。
問7	答え 4 吉野ヶ里遺跡 ― 大規模な環濠集落	佐賀県の吉野ヶ里遺跡は、復元された高い柵や深い濠、そして大規模な物見櫓の跡から、当時の極めて高い防衛意識がうかがえる代表的な環濠集落です。これは、当時の社会が「クニ」へとまとまっていく過程で、集落間の抗争が激しかったことを裏付ける重要な史跡です。
問8	答え 1 骨に武器による殺傷跡があったり、本来あるはずの頭部がない状態で発見されたりすること	弥生時代の遺跡では、戦いによって傷ついた人骨や、鋭利な道具で切断された跡がある人骨がしばしば発見されます。これは、土地や水をめぐる「争い」が社会的に定着したことを示す考古学的な証拠です。銅鐸は祭りや儀式に用いられた道具であり、争いの直接的な証拠ではありません。また、古墳に埋葬されるようになるのは後の古墳時代の特徴であり、弥生時代の争いの証拠とは区別する必要があります。
問9	答え 3 稲作の豊穰などを願うための祭祀の道具として用いられた	弥生時代の金属器には役割分担がありました。鉄器は硬くて鋭いため、武器や農具などの実用的な道具として使われました。一方で、青銅器は加工しやすく美しい光沢を持つため、神をまつる儀式や村の行事で使われる祭祀具（宝物）として発展しました。
問10	答え 1 各地に「クニ」と呼ばれるまとまりができ、それを支配する「王」が現れた。	稲作によって余剰生産物が生まれると、蓄えの多い者と少ない者の間で貧富の差が生じました。また、水資源を管理するリーダーが権力を持つようになり、小さな集団が統合されて「クニ」が形成されました。それらを統治する「王」が登場したことは、中国の歴史書にも記されています。なお、戸籍による口分田の支給は、後の律令国家の仕組み（班田収授の法）にあたります。
問11	答え 1 稲作が普及して蓄えられた食料や土地をめぐる争いが始まり、防御を固める必要があったため	縄文時代にはあまり見られなかった集落同士の争いは、弥生時代に入り稲作による余剰生産物（富）が生まれたことで発生しました。吉野ヶ里遺跡などの調査からは、集落全体を濠や柵で囲むだけでなく、物見櫓を立てて外敵を監視していた様子も判明しており、当時の社会が非常に緊張感のある状態にあったことを示しています。
問12	答え 3 争いを通じて周辺のムラが統合され、クニと呼ばれる強力な政治的まとまりが形成された	土地や水をめぐる争いは、勝利した集落が敗北した集落を吸収・統合するプロセスでもありました。これにより、複数の「ムラ」が統合されて「クニ」へと大規模化し、その中心に王のような強力な指導者が現れることで、初期の国家形成へとつながっていきました。